

初めての ノーリフティングケア



医療法人ひのき会
介護老人保健施設ひのき

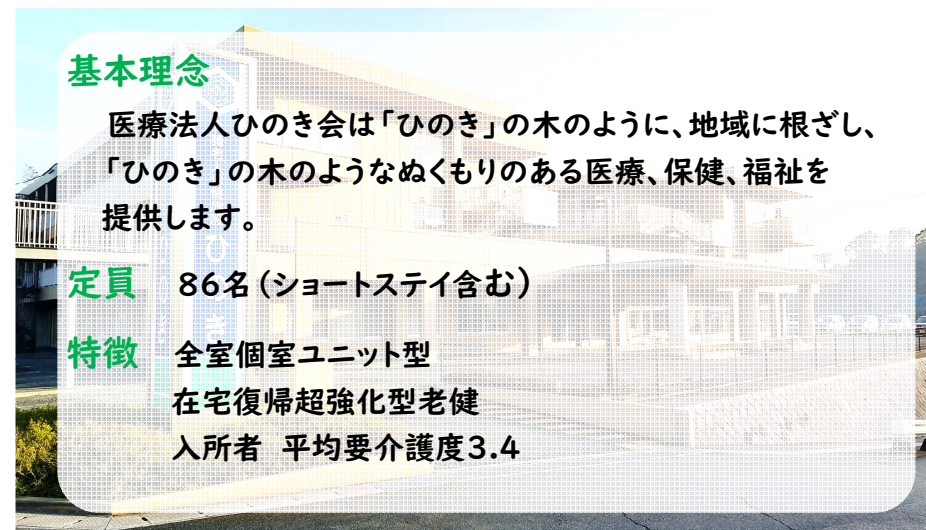
介護老人保健施設ひのき概要

基本理念

医療法人ひのき会は「ひのき」の木のように、地域に根ざし、「ひのき」の木のようなぬくもりのある医療、保健、福祉を提供します。

定員 86名（ショートステイ含む）

特徴 全室個室ユニット型
在宅復帰超強化型老健
入所者 平均要介護度3.4



ひのきとノーリフティングケア①

取り組み前のイメージ

福祉用具を使用することで、抱えない介護を実現するもの

福祉用具を使用すると時間がかかるため、抱える介護のほうが早い

腰痛の訴えがある職員が多い（次ページ参照）

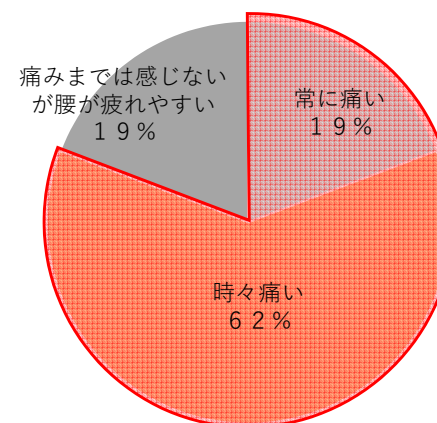


ノーリフティングケアへの取り組みが必要



腰痛調査

令和5年6月の調査結果



約80%が腰痛あり
(常に痛い、時々痛い)



ひのきとノーリフティングケア②

マネジメント教育受講後のイメージの変化

介護する側だけでなく、介護される側双方において安全で安心な介護である。

抱え上げないだけでなく、持ち上げない・引きずらない介護もノーリフティングケアである。

ひのきの目的

介護する側・介護される側双方の健康的な生活を保障できるケアを実践する。



Enokika

教育の実施状況

全職員を対象として、計画を作成



未実施



<計画修正>ユニットリーダーを対象とする



ユニットリーダーを推進メンバーとして、介護職員へ教育・浸透させていく



Enokika

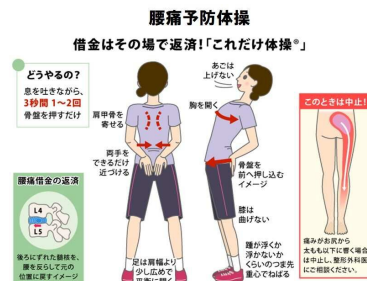
リスクの抽出と対策

リスク 個人での腰痛予防に取り組んでいるスタッフや何もしていないスタッフなど組織として腰痛予防を検討する必要がある



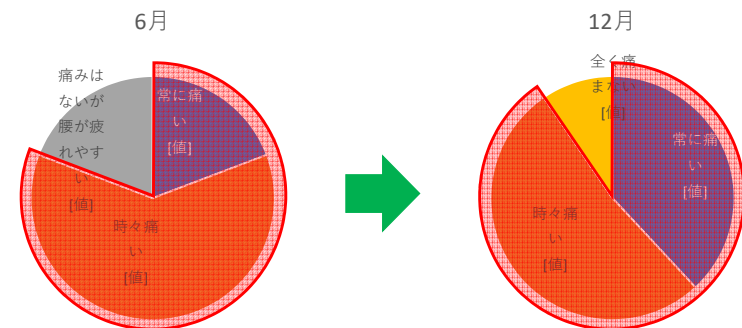
マネジメント研修で腰痛予防のために
就業前・就業中の体操の必要性に気づく

対策 腰痛体操の掲示・実施



Enokika

腰痛調査

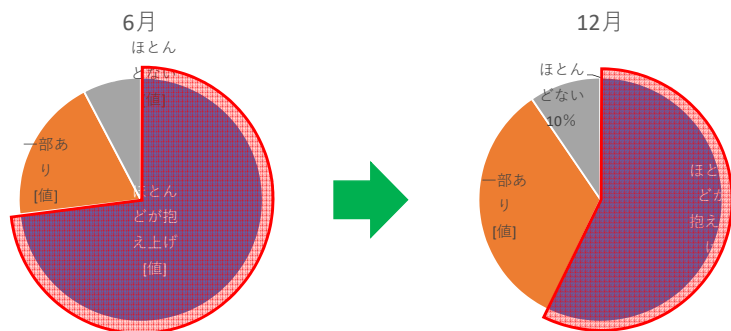


「常に痛い」が約倍増

「常に痛い」「時々痛い」の『腰痛あり』は10%増加

Enokika

日常業務において、持ち上げや抱え上げなどの介助はありますか？



「ほとんどが抱え上げ」が約15%減少
少しの取り組みであったが意識の変化がみられた!?

Emokitaka

反省と今後に向けて

<反省>

「腰痛調査」の結果、**悪化している**こととなった。
作成した計画どおりに進まなかった(進めることができなかった)ものが複数あり、現段階では成果をあげることができていない。

<今後>

「日常業務において持ち上げや抱え上げなどの介助」は『**ほとんどが抱え上げ**』が**減少**しており、取り組みを継続することで腰痛の良化を達成する。
そのためにも**PDCAサイクル**で運用できるよう、定期的な**評価・修正等の体制**を構築する。

Emokitaka

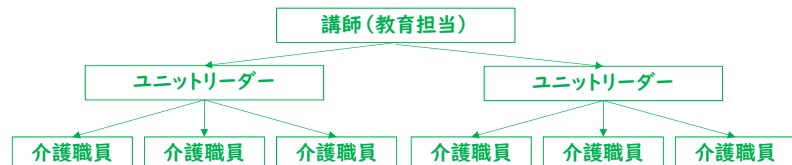
反省と今後に向けて

<反省>

全体での教育の遅延等『ノーリフティングケア』の浸透が完全にできておらず、取り組んでいる職員・取り組んでいない職員と差がでてきている。

<今後>

技術研修は、一度での集合教育は困難であるため、動画も使用しながら、まずは**ユニットリーダー**から**教育**し、介護職員へ教育していく。



Emokitaka

次年度の目標

1. 介護職員の「腰痛あり」の割合の減少
2. 「腰痛体操」を**当たり前**にする
3. 福祉用具の充実
4. 技術研修の全職員受講



『ノーリフティングケア』はスタッフのためではなく、ご利用者にとってもプラスになるものであり、スタッフを守り、スタッフが良い状態でサービス提供することでサービスの質の向上につなげていく

Emokitaka